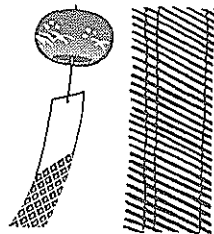


テレビとの上手な

つき合いかた

河野 裕 (RKC高知放送テレビ制作部長)



テレビとは、即時に遠くのものゝ、居ながらにして見ることが出来る、媒体で、見る世界をこれほど拡大したものはありません。

この歴史は古く、スポーツ放送に最初に使用したのは、ヒトラー時代のベルリンオリンピックのときと言われています。

日本で最初に、テレビというもので放送を始めようとして、昭和二十三年、当時の政府 (GHQ) に申請を出したのが、読売新聞の社主であり日本テレビの生みの親である正力松太郎氏でした。しかし、昭和二十三年当時、正力氏はA級戦犯として公職を追放されていたこともあり、すぐには許可が下りず、三年後の昭和二十六年にようやく予備免許が下りました。この背景には、昭和二十五年朝鮮戦争のぼつ発を契機にアメリカは、テレビというマス媒体を通し

て世論をつくり、日本の反共政策の砦にするという大きな意図があったわけです。

そこで一番あわてたのが、テレビ放送はまだ二十三年先と思っていたNHKで、大規模な巻き返し工作を展開します。それが成功し、昭和二十八年二月一日、NHKが初めて東京でテレビ放送を行い、六カ月遅れて、八月一日、日本テレビが放送を始めます。しかし、テレビの価格はたいへん高く、今のお金に換算すると三百万円もして、庶民にとっては高嶺の花であつたようです。

その後、テレビは徐々に普及してきますが、当初普及率はあまり芳しくありませんでした。ところが昭和三十四年、象徴的イベントのために、爆発的売れ行きを示します。それは皇太子殿下と美智子妃殿下の成婚パレードを、テレビ

で一目見ようというものでした。そのときに、なんと百万台が売れたと言われています。次いで、昭和三十五年にカラー化が実現し、テレビは楽しく親しみがあり臨場感あふれる放送媒体として、生活に不可欠なものとなつて、大きく成長して来しました。

また、テレビ放送を大幅に前進させたもう一つの出来事として、昭和三十八年十一月二十三日、通信衛星による放送が始まったことです。そして、海を越えて送られてきた最初のニュースが、ケネディ大統領がダラスで暗殺されたという、あのショッキングな知らせでした。ところが、テレビが一般庶民へと広く普及してくるにつれて、テレビが与える社会への影響が、だんだんと大きな問題となつて来しました。そして今や、青少年の非行

の元凶だ、子どもたちの勉強の妨げになり、目も姿勢も悪くなると、テレビへの批判が非常に多くなつています。

しかし、日本人ほどテレビ好きな民族はいません。なぜ好きなのか。現代社会のような情報化時代では、テレビからの情報は必要なのですが、それ以上に、核家族化が進み話し相手が少なくなり、また他にも娯楽がないのでテレビを見るという人が多いようです。

テレビが人間を変えたのか、人間がテレビを変えたのか。我々のテレビ局も、皆さんが俗悪と言われる番組を放送していますが、それは局が勝手に作っているのか、あるいは皆さんが見たいから作っているのか、いったいどちらでしょう。これはどちらとも言えず、お互いが要求し合つ

ているからです。番組を作る側の私たちは絶えず、皆さんがたのつくる視聴率という化物みたいなものに、振り回されています。

情報化時代の現在、テレビはもう生活から切り離すことはできないものとなつています。受け手の皆さんはまず、テレビは絶対的でないということを認識してください。使い方ひとつで、良くも悪くもなり、良いとこ悪いとこを見分ける目を持って見て欲しいと思います。

今、サークルなどを作つていっしょにテレビを見て、批評し合いながら学習して行こうという新しい動きが生まれています。

これからのテレビの見方は、今までのように受動的に見るのではなく、能動的に見てください。何とはなしに見るのではなく、受け手の皆さんは、何かをつかみ取るという気持ちに切り換えることが、テレビと上手につき合う最大のポイントです。

皆さん、家族とのコミュニケーションを持ちながら、良いものを選び見てください。NHKの教育テレビも、子どもたちに見せてやるべきと思います。テレビを、生活の中に上手に取り入れ、大いに活用してください。